Pioneer

パイオニアグループ企業行動報告書

2014

本報告書に関するご意見・お問い合わせ先

パイオニア株式会社

CSR・リスク管理部

〒212-0031　神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

TEL　044-580-3211（代表）

パイオニアのホームページでもご意見・お問い合わせを受け付けています。
https://www3.pioneer.co.jp/support/contact/csr/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004514 www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

VOC FREE T&K

Waterless Printing. Naturally.

この報告書は、環境に配慮し、FSC®森林認証紙を使用しています。
また揮発性有機化合物を含まないNon-VOCインキを使用しており、
印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。

2014年8月発行

「パイオニアグループ企業行動報告書2014」の発行にあたって

この報告書は、パイオニア株式会社および
パイオニアグループの考え方や活動を
できるだけ分かりやすくお伝えすることを目的として、
グループ全体の活動をまとめたものです。
私たちの商品・サービスが提供する
「音」「映像」「情報」を通じて、
より多くの人とより深い感動を分かち合いたい。
パイオニアの企業理念「より多くの人と、感動を」には、
このような思いが込められています。
この企業行動報告書を通じて、
パイオニアグループの企業行動の
全体像を知っていただき、
皆様とのさらなる対話を
進めていきたいと考えています。

対象範囲

- 対象期間: 2014年3月期(2013年4月1日から2014年3月31日)を対象としますが、それ以前の取り組みと最近の活動も含めています。
- 対象組織: パイオニア株式会社およびパイオニアグループ連結子会社:81社(2014年3月31日現在)
- 発行時期: 2014年8月

関連する報告書および情報

- 財務情報については、「有価証券報告書」「アニュアルレポート」などの報告書およびホームページ「投資家情報」で情報を開示しています。
  http://pioneer.jp/corp/ir/
- 環境に関する詳しい報告は、ホームページで情報を開示しています。
  http://pioneer.jp/corp/environment/
- 技術開発・研究開発については、学会発表会およびホームページで情報を開示しています。
  http://pioneer.jp/corp/crdl_design/crdl/

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- GRI(Global Reporting Initiative)「GRIガイドライン第3版」

本報告書において

- 「パイオニア」とは、パイオニア株式会社を、「パイオニアグループ」とは、パイオニア株式会社を含むグループ全体を表します。

C O N T E N T S

● ステークホルダーの皆様へ

3 トップメッセージ

4 今後の成長に向けて
構造改革の実施／成長戦略による収益力を強化／将来に向けた戦略的アライアンスの強化／財務基盤の強化

5 業績の概況について
事業セグメント別の概況(連結)と連結業績の概況

6 企業ビジョン体系

● 誠実な企業活動

7 社会から信頼される企業であり続けるために
コーポレート・ガバナンス／判断・行動のよりどころ／コンプライアンスの徹底と社内通報制度／内部統制システムとリスクマネジメント／危機対応／経営情報の適正開示／安全保障輸出管理／公正取引の確保／反社会的勢力の排除／知的財産、著作権の保護／情報セキュリティおよび個人情報保護／資材調達のお取引先様への要請

● お客様の満足と信頼

13 お客様の満足と信頼を得るために
品質保証の理念／製品安全確保への取り組み／商品に関する公的規制への対応／品質確保に向けた源流からの取り組み／人間中心設計の推進／解析評価による再発防止と未然防止／お客様へのサポート＆サービス／お客様からの相談対応(カスタマーサポート)／商品の修理サービス／安心してご愛用いただくために

● 環境活動

19 パイオニアの環境活動とは
環境活動の基本的な考え方／将来に向けた取り組み／環境保護推進体制／製品開発での取り組み／事業活動での取り組み／2014年3月期の主な目標・実績／パイオニアの環境負荷／地球温暖化防止に向けた取り組み／資源循環の取り組み／製品含有化学物質の管理

23 製品のエコ
スーパーアドバンストエコモデル／車のエコ／家のエコ／街のエコ／パイオニアは環境賞を多数受賞／知られざる開発秘話

27 事業所の取り組み
地球温暖化防止／廃棄物・有価物の削減／グリーン購入／トピックス

● 従業員重視

29 一人ひとりがいきいきと働くために
企業ビジョンの実現に向けて／人権の尊重／多様性の重視／メンタルヘルスケア／労働災害防止／人材育成

● 社会との調和

31 社会貢献活動
音楽・映像:身体で聴こう音楽会／環境保全:パイオニアの森／教育支援:ものづくり教室／パイオニアグループの社会貢献活動

33 社会とのコミュニケーションのために
株主・投資家および社会／お客様／取引先(資材調達)／ 販売店／地域社会／労働組合

● 組織の概要

34 全世界に広がるパイオニアグループのネットワーク／会社概要

トップメッセージ

パイオニアの創業者である松本望が、生まれて初めて聴いたダイナミック・スピーカーの音に心の底から感動し、「いつかきっと、このような素晴らしいものをつくってやろう。」と決心したことが、パイオニア創業の原点です。

「より多くの人と、感動を」は、この創業の精神を企業理念として表したものであり、時代や環境が変わっても揺るぐことのない信条として受け継がれており、1938年の創業以来、数多くの画期的なエレクトロニクス製品を世に送り出してきました。

この企業理念には、国境や人種を越え、この地球に生きるすべての人々と、「音楽と映像と情報」を通してコミュニケーションすることで、さまざまな感動を分かちあえる企業でありたい、という想いが込められています。

また、「街でも家でも車でも、笑顔と夢中が響き合う」という企業ビジョンは、「お客様との関係」、「会社・社員・風土」、「商品・提供する価値」、「社会・パートナーとの関係」、「街・家・車の中での存在感」といった5つの視点から、こうありたいと想う姿を具体的にイメージし、再び成長への道を歩み始めるための私たちの指針となるものです。2013年5月に策定した中期事業計画のなかで、新興国市場への進出と事業拡大、新規事業の開発を掲げて企業ビジョンの達成に向けて事業を進めておりますが、そこで忘れてはならないことは、地球環境を保全しつつ、社会・経済の持続的発展に貢献していくことであると考えております。そして、人と人とのつながり、そして相手を思いやる気持ちがあってこそ、笑顔と夢中が響き合い、より多くの人と感動を分かち合えるのだろうと思います。

2014年3月期を振り返ると、構造改革に全社を挙げて取り組み、売上高の増加により、当期純損益を黒字に転換することができました。2015年3月期も、カーエレクトロニクスを中心に増収・増益を図り、さらなる経営基盤の強化と収益力の向上を目指してさまざまな施策に取り組んでまいります。

そして、パイオニアらしい製品や顧客価値を生み出し続けるとともに、健全な企業行動を通じ、さまざまな立場のステークホルダーの方々から寄せられる社会的要請に応えながら、長期的に安定した経営基盤を築いていくこと、これがパイオニアに求められている社会的責任であり、その実現に向けて課題を一つずつ解決しながら着実に進めていくことが、経営に課せられた責務であると考えております。

より大きな形で、社会的責任を果たし、貢献していくために、日々着実に歩んでまいりたいと思います。

今後ともステークホルダーの皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2014年8月

代表取締役　兼　社長執行役員

小谷　進

今後の成長に向けて

構造改革の実施

当社は、再成長路線に向けて経営基盤を強化するための利益改善を図る構造改革を進めております。

カーエレクトロニクス事業においては、共通化・共有化したモジュールの組み合わせによって設計工数と生産工数を削減するモジュラーデザインの本格導入により、開発・生産効率の向上を図るとともに、国内外の生産拠点を再編・スリム化し、コストダウンを進めてまいります。具体的には、国内での生産はフラッグシップモデルを中心とし、その他の製品は平成27年3月末までに海外へ生産拠点をシフトします。

ホームエレクトロニクス事業においては、ホームAV事業の機能の一部を統合することに向けて検討するとともに、光ディスク事業においてもさらなる体制のスリム化を図ります。

販売体制につきましては、先進国の体制を再配置し、経営資源を新興国へシフトしてまいります。

成長戦略による収益力を強化

今後の収益力強化のために、各事業で次のような成長戦略に取り組んでまいります。

カーエレクトロニクス事業では、市販とＯＥＭの両方の事業を展開している強みを活かし、市場で顕在化する需要の獲得と、新たな需要・市場の創造によって事業を拡大してまいります。また、新興国戦略を強化し、これまでのビジネスの実績やノウハウを活かしつつ、地域ごとの経済・市場環境に適応した事業や製品展開を推進いたします。

ホームエレクトロニクス事業では、世界的に高い評価を得ているＤＪ機器事業を主軸に据え、堅実に成長させるとともに、ホームAV事業や光ディスク事業のスリム化を行うことで、黒字体質の事業へと転換させてまいります。

その他事業では、既存事業との相乗効果を発揮するものを中心に、経営貢献度の高い事業への集中を図ってまいります。

また、新規事業については、有機ＥＬ照明事業や医療・健康機器関連事業など、有望な事業に経営資源を集中し、早期収益化を目指してまいります。

将来に向けた戦略的アライアンスの強化

当社は、コア事業であるカーエレクトロニクスの強化に向けて、三菱電機株式会社と株式会社NTTドコモとの戦略的アライアンスを強化するべく、両社との資本・業務提携を行ってまいります。今後の自動車環境を見据え、当社が持つ車両ネットワーク技術や独自の地図データ、走行情報などの強みと、提携先が持つ車両情報やクラウド情報に代表される強みを融合し、ハード・ソフトと情報サービスを強化・進化させたビジネスモデルへと事業を変革することで、新たな価値を創造してまいります。

財務基盤の強化

財務目標として、財務基盤の回復と安定化にも注力いたします。自己資本比率の30%水準までの引き上げを目指すとともに、棚卸資産の管理を強化し、在庫水準の適正化を図ることで、安定したキャッシュポジションを確保してまいります。

業績の概況について

事業セグメント別の概況(連結)と連結業績の概況　2014年3月期

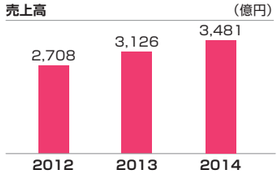
● 事業セグメント別の概況(連結)

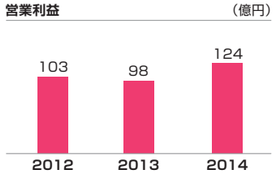
カーエレクトロニクス

売上高構成比 69.9%

カーAVシステム

主要製品:
- カーナビゲーションシステム
- カーステレオ
- カーAVシステム
- カースピーカー





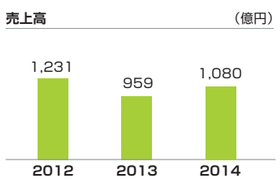
- 売上高は、カーナビゲーションが国内で市販市場向けが減少したが、OEMで増加。カーオーディオはOEM、市販市場向けが増加し、11.4%増収。
- 営業利益は、原価率の悪化や販売費および一般管理費が増加したが、売上が増加し、27.0%増益。

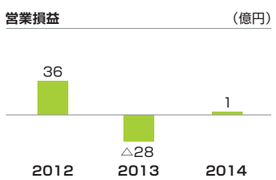
ホームエレクトロニクス

売上高構成比 21.7%

DJ機器

主要製品:
- オーディオシステム　■ オーディオコンポーネント
- DJ機器　■ CATV関連機器
- ブルーレイディスクプレーヤー　■ ブルーレイディスクドライブ
- DVDプレーヤー　■ DVDドライブ　■ AVアクセサリー

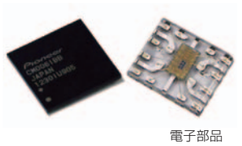




- 売上高は、光ディスクドライブ関連製品が減少したが、DJ機器やCATV関連機器が増加し、12.6%増収。
- 営業損益は、販売費及び一般管理費が増加したが、構造改革の効果および原価率の良化、売上が増加し、1億円の利益。

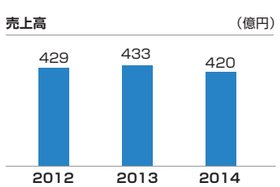
その他

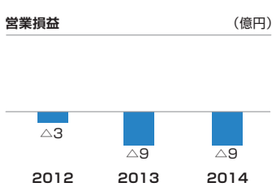
売上高構成比 8.4%



電子部品

主要製品およびサービス:
- FA機器　■ スピーカーユニット
- 電子部品　■ 有機ELディスプレイ
- 電話機　■ 業務用AVシステム
- EMS(電子機器受託製造サービス)
- 地図ソフト　■ 光ディスク関連特許の使用許諾



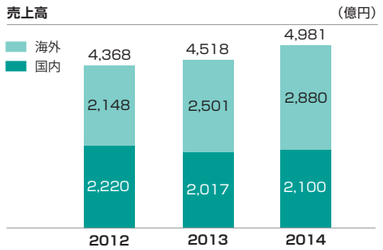


- 売上高は、電子部品が増加したが、FA機器が減少し、3.2%減収。
- 営業損益は、新規事業への投資等により販売費及び一般管理費が増加したが、構造改革の効果および原価率の良化により前期並み。

(注) 各セグメントの営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表しています。

● 連結業績の概況

売上高は、カーエレクトロニクスがOEMを中心に増加したことから、10.2%増収の4,981億円となりました。営業利益は、構造改革の効果に加え、売上高が増加したことにより、86.2%増益の112億円となりました。また、当期純損益は、営業利益の増加に加え、前期に特別損失を計上していたことなどにより、前期の純損失から黒字に転換し、5億円の利益となりました。



企業ビジョン体系

社会におけるパイオニアのミッションと存在意義は、企業理念「より多くの人と、感動を」に込められています。
2010年4月に制定した企業ビジョンには、現在のパイオニアの状況を踏まえて、
企業理念の実現に向けた目指すべき企業像を掲げています。
企業ビジョンの実践が、最終的なゴール「より多くの人と、感動を」の実現につながっていきます。

企業理念

より多くの人と、感動を

次のパイオニアを、はじめよう
ビジョン

**街でも家でも車でも、
笑顔と夢中が響き合う**

パイオニアは、お客様と一緒に「街でも家でも車でも、笑顔と夢中が響き合う」会社になります。
今回のビジョンに込めた重要な想いは“お客様と一緒” “笑顔と夢中”そして“成長”です。

- 会社都合のお客様視点ではなく“お客様と一緒”に商品・価値を創っている。
- お客様の“笑顔と夢中”を社員も“笑顔と夢中”でお手伝いしている。
- 社員同士も“笑顔と夢中”で協力しあっている。
- お客様の“成長”、社員の“成長”とともに会社も“成長”している。

そのような会社になりたいという想いがこのビジョンには込められています。

“響き合う”という言葉には“お客様と社員が響き合う” “社員と社員が響き合う” “社員と会社が響き合う”という想いが込められています。
この想いを社員全員が共有し、ビジョンを達成したい。
そしてお客様・パートナー様、そして社会に望まれる会社になりたいと想います。

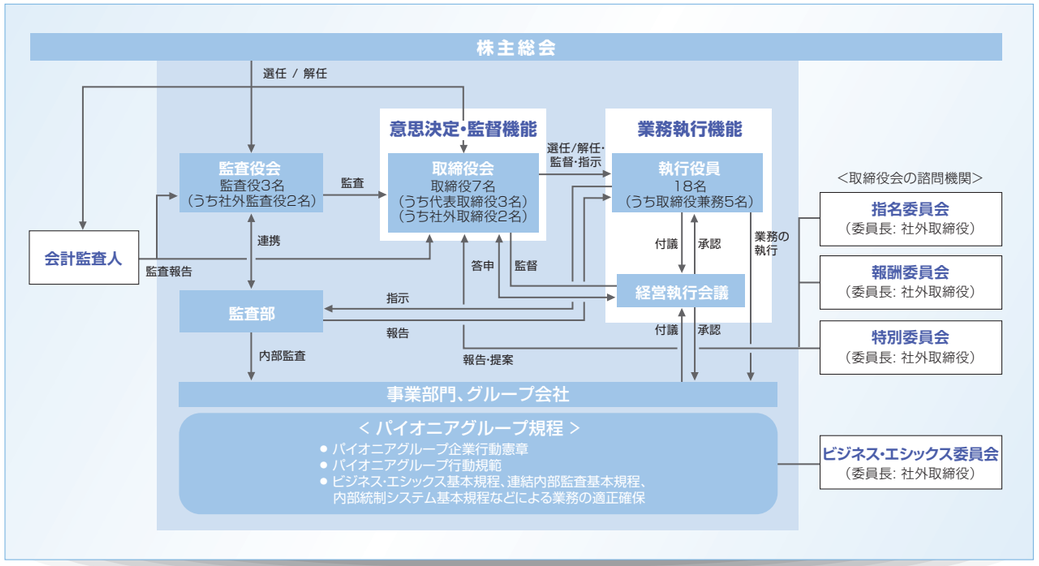
社会から信頼される企業であり続けるために

コーポレート・ガバナンス

当社は、コーポレート・ガバナンス体制として「監査役会設置会社」制度を採用しています。取締役会において経営方針等の意思決定と業務執行の監督を行い、監査役会が取締役の職務執行に対する監査を行う体制としており、この機関構造を基本とした上で、迅速な業務執行を行うために執行役員制度を採用しています。

また、意思決定の透明性を確保することを目的として、経営執行会議および取締役会の諮問機関としての任意の委員会を設けています。

● コーポレート・ガバナンス体制（2014年6月26日現在）



取締役会、監査役会および執行役員

当社は監査役制度を採用し、経営方針等の最重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、業務執行機関としての代表取締役、監査機関としての監査役会を設置しています。また、執行役員を選任し、迅速な業務執行と責任の明確化を図っています。

取締役については、当社グループと重要な取引関係がなく高い独立性を有する社外取締役を複数選任し、業務執行に関する取締役会の監督機能を強化するとともに、株主による選任の機会を増やすことで、取締役の責任をより明確にして経営環境の変化に迅速に対応できるよう、任期を1年としています。

また、取締役は全社的な視点から意思決定機能および監督機能に特化し、執行役員はその業務執行機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの向上を図っています。監査役会は、半数以上が独立性の高い社外監査役で構成されており、取締役の職務執行に対する監査を行っています。2014年3月期においては、取締役会は9回、監査役会は10回開催しました。

経営執行会議

取締役会の意思決定機能を強化するプロセスとして、執行役員の中から取締役会が指名したメンバーで構成される経営執行会議を設置し、原則として週1回開催しています。経営執行会議は、取締役会の監督の下、事業推進上の重要課題、投資案件やグループ再編、グループ全体の経営戦略、中長期方針等の議題について十分な議論を行い、決定します。また、取締役会が決定権を持つと定められた事項は、取締役会への答申を行うこととしています。2014年3月期においては、34回開催して約80件の案件を審議しました。

任意の委員会

経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的に、取締役会の諮問機関として、社外取締役を委員長とする「指名委員会」「報酬委員会」「特別委員会」を設置しています。指名委員会は取締役および執行役員の選解任等や監査役の選任に関する事項を、報酬委員会は取締役および執行役員の報酬等に関する事項を、特別委員会は企業買収等の企業価値に重大な影響を及ぼす事態への対応策に関する事項を、それぞれ審議します。審議の結果は取締役会に報告・提案され、取締役会は、その報告・提案内容を十分に尊重して審議を行います。

判断・行動のよりどころ

パイオニアグループでは、これからも製品とサービスを提供するなかで社会の変化を常に意識し、株主をはじめ、消費者・顧客、地域社会、取引先および従業員などさまざまな相互関係のなかで対話を通して社会の要請を把握し、その社会的責任を果たしていきます。

良き企業市民として社会から信用と尊敬を得ることを目指した「パイオニアグループ企業行動憲章」を頂点とし、さらに、パイオニアグループの役員および従業員が業務における判断・行動の基準として遵守すべき基本的な事項を「パイオニアグループ行動規範」として定めています。

グループ各社は、この行動規範を国や地域の法制度や社会慣習などを考慮しながら、すべての役員と従業員に徹底しています。

「パイオニアグループ企業行動憲章」

- 私たちは、社会にとって有益かつ安全な製品とサービスを提供します
- 私たちは、社会的正義を尊重した公正な企業活動を推進します
- 私たちは、地球環境の保全につとめ、継続的に改善活動を行います
- 私たちは、情報の適正な開示につとめます
- 私たちは、万全な危機管理体制のもと迅速・誠実に対応します
- 私たちは、資産・権利を厳正に管理、保護します
- 私たちは、グローバルな視点に立ち、社会貢献につとめます
- 私たちは、人間尊重にもとづいた企業活動をめざします

「パイオニアグループ行動規範」の構成

社会から信頼される企業であり続けるために
- 資本市場からの信頼
- お客様の満足を第一に考える経営
- 多国籍企業としての法令遵守
- 環境保護
- 社会への貢献
- 市民社会を脅かす者への対応
- 企業情報の開示
- インサイダー取引
- 不公正な利益供与

お客様の満足と信頼を得るために
- 安全で高品質な商品・サービスの提供
- 公正かつ適切な情報の提供
- お客様の苦情・要望への対応
- お客様の個人情報の保護

公正で自由なビジネス関係を築くために
- 公正な取引
- 他者情報の管理
- 購入先・協力会社との取引
- 販売先との取引
- 関係省庁・業界団体等との関係
- 接待・贈答への対応

業務を適正かつ効率的に遂行していくために
- リスク管理の徹底
- 会社情報の管理
- 知的財産の保護
- 会社資産の適切な管理と使用
- 適正な会計処理

一人ひとりがいきいきと働くために
- 雇用における人権の尊重
- 多様性を重視した職場風土
- ハラスメント行為の禁止
- プライバシーの保護
- 健康で安全な職場環境
- 職場における情報の共有
- 虚礼の廃止
- 政治・宗教活動、勧誘活動

規範をもとに行動するために
- 通報窓口のしくみ

「パイオニアグループ企業行動憲章」「パイオニアグループ行動規範」はホームページで公開しています。 http://pioneer.jp/corp/society/csr/code/charter.php

社会から信頼される企業であり続けるために

現代は、社会環境、人間の考え方や価値観が変化するなか、企業と企業の社員もその変化に対応することが求められています。こうした社会変化はリスクも変化させ、リスク管理はより重要なものになってきています。現代のリスクは、法令や社会通念に関わること、震災や洪水など災害に関わること、それぞれの事業に関わることなど様々なリスクがありますが、それらを最小化するため「CSR・リスク管理部」を設置し取り組みの強化を進めています。

コンプライアンスの徹底と社内通報制度

パイオニアグループは、法令や規範を遵守し社会的責任の基盤となるコンプライアンスについて、従業員が安心して仕事ができる風土づくりでもあると考えています。

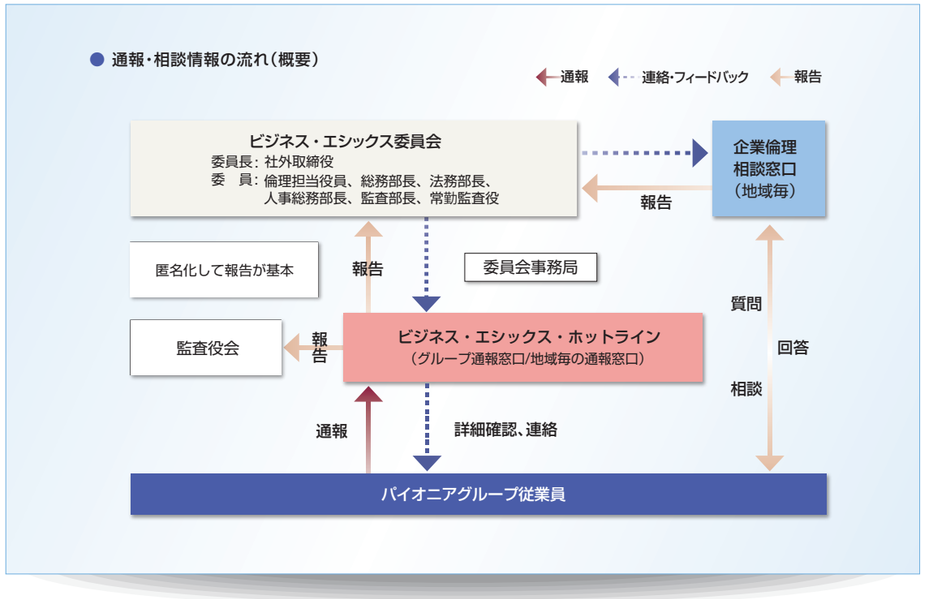
パイオニアグループ規程「ビジネス・エシックス基本規程」に基づいて当社社外取締役を委員長とする「ビジネス・エシックス委員会」を設置し、グループの役員および従業員の法令遵守や、「パイオニアグループ行動規範」の徹底を図っています。

従業員が安心して仕事ができる風土を根底から腐らせかねない逸脱行為の撲滅のために、内部監査をグループ全体で充実させるとともに、「パイオニアグループ行動規範」に反する行為の早期発見や適切な対応のために、グループ全体の社内通報制度として「ビジネス・エシックス・ホットライン」を設けています。

このホットラインは、外部機関を通報の受付窓口としており、通報者の匿名性を確保しつつ詳細を確認できる仕組みとしています。

また、通報内容は「ビジネス・エシックス委員会」と同時に監査役会にも報告される仕組みとしており、誠実かつ確実な対応が可能となっています。

社内のイントラネットに設けた掲示板での掲示や日頃から携帯してもらうカードを配布するなど、従業員に対して「ビジネス・エシックス・ホットライン」の周知を行い、万が一、不正を見かけたときに通報しやすい環境づくりを図っています。



内部統制システムとリスクマネジメント

パイオニアグループは「信頼される経営」を行うために、それを阻害するリスクの未然防止と危機発生への備えの仕組みとして、内部統制システムの充実・強化を推進しています。

グループ全体での業務執行の適正化、効率化を図るために、「パイオニアグループ規程」の整備・充実と周知徹底を行っています。

「パイオニアグループ規程」は、「パイオニアグループ企業行動憲章」を頂点として、「パイオニアグループ行動規範」およびグループ各社の責任と権限の範囲やコンプライアンスルールなどに関する諸規程で構成されています。

パイオニアグループの事業活動に伴うリスクについて、リスク管理体制の充実・強化を推進するために、パイオニアグループ規程「内部統制システム基本規程」に基づき、当社代表取締役を委員長とする「内部統制委員会」を設置し、リスクの把握と危機の未然防止策について整備を図っています。

重要なリスクについては、「パイオニアグループ規程」の中で対応方針を定め、組織的な管理を行っています。

これらの諸規程を主管する本社部門は、グループ全体に規程の周知と理解を図る役割を担っています。

社長直轄組織である監査部は、パイオニアグループ規程「連結内部監査基本規程」に基づいて、グループ全体にわたる内部監査の実施を統括しています。

監査部は、グループ各社の内部監査担当者や、監査役会、会計監査人などとも連携をとり、内部統制システム、リスクマネジメント等の監査をはじめ、企業倫理や品質管理、環境等の監査の充実を図っています。

危機対応

パイオニアグループは、企業経営に重大な影響を及ぼすおそれのある危機発生時における適切な対応を図るため、パイオニアグループ規程「危機管理基本規程」を定めています。これに基づき、当社代表取締役を委員長とする「EM委員会」を常設の組織として置き、危機管理に関する教育・啓発を行うとともに、当社グループの組織毎に担当責任者を配置して、危機発生時における対応と事態解決を行っています。危機管理におけるグループ各組織の役割および危機発生に対する対応手順などについては、「危機管理マニュアル」において定めています。

また、パイオニアグループでは、大地震や強毒性の新型インフルエンザなどの災害に対して、人命の尊重を第一とし早期の事業回復を図るために、災害発生時において適切に判断・行動できるよう、「災害対策マニュアル」を作成するとともに、必要とされる食料・医療品などの備蓄、緊急時における通信連絡方法の整備などを行い、また、訓練を実施してきました。

2011年3月に発生した東日本大震災と2011年10月にタイで発生した洪水の経験を踏まえ、重大な災害が発生したときに速やかに事業体制の復旧を図れるよう、事業継続計画の策定を進めるとともに実効性を高めるために訓練を行っています。

BCP災害対策本部訓練（2014年４月16日実施）

社会から信頼される企業であり続けるために

経営情報の適正開示

パイオニアグループは、パイオニアグループ規程「情報開示基本規程」を定め、経営情報について、株主・投資家をはじめ、顧客、取引先、マスコミ、地域社会などすべての利害関係者に対して適時適正な情報開示を行うことと、法令・公的規則にもとづく情報開示のみならず、グループの企業理解や投資判断に有用と考えられる情報についても積極的かつ公正に開示することを基本方針にしています。そして「情報の適正な開示」を確実に実行し、透明性の高い企業活動を目指すとともに、株主や投資家および社会からの企業理解と信頼の向上を目指しています。

また、2009年より金融商品取引法に基づく財務報告の適正性の確保が義務付けられ、内部統制システムを充実し、今年(2014年)6月に提出した「有価証券報告書」に関しても、財務報告に係る内部統制について適正であるとの監査結果を会計監査人より得ています。

パイオニアグループ規程「内部者取引防止基本規程」を定め、インサイダー取引防止のための管理体制として、情報管理の強化とグループの役員・社員に対するパイオニア株式の取引規制の強化、役員および従業員教育の徹底などを実施しています。

ディスクロージャー・ポリシー http://pioneer.jp/corp/ir/disclosure/

安全保障輸出管理

パイオニアグループは、広く国際社会で事業を展開するグローバル企業として、国際的な平和および安全の維持・発展を願い、安全保障輸出管理に関する国際的な合意および各国の輸出規制関連法規を遵守することを経営理念としています。そのためにパイオニアグループは、自主管理基準を定めて、海外を含むグループ横断的な「パイオニア輸出管理委員会」による推進体制のもとで的確かつ効率的な管理を行っています。また、パイオニアグループ規程「安全保障輸出管理基本規程」を定めるとともに、当社代表取締役を輸出管理統括責任者として任命しています。

公正取引の確保

パイオニアグループは、パイオニアグループ規程「公正取引基本規程」を定め、独占禁止法等の法規の遵守を徹底するために、「独禁法遵守マニュアル」を作成し、同マニュアルの社内への周知徹底を実践しています。また、グループ国内外の法務部門が中心となり、コンプライアンス教育を行っています。

また、「下請法」等に関する研修会の開催や、営業部門等における不当な取引制限、不公正な取引方法、私的独占といった行為を防止するためのガイドラインの策定、周知などの取り組みを強化しています。

反社会的勢力の排除

パイオニアグループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力の排除に関する方針として、「パイオニアグループ企業行動憲章」で定める、社会的正義を尊重した公正な企業活動を推進するという精神に則り、「パイオニアグループ行動規範」により、組織的かつ毅然とした対応を行うこととしています。

また、「反社会的勢力対応基本規程」を定めるとともに、対応を統括する部門を定め、外部専門機関との連携や、当社グループにおける情報の共有、対応に関する指導、連絡の徹底を行うなど、体制を強化しています。

知的財産、著作権の保護

パイオニアグループは、技術開発等から得た知的財産を適切に維持、管理するだけでなく、他者の保有する知的財産を尊重することを基本として日々取り組んでいます。

また、パイオニアの関連部門および関係会社の担当者により、著作権連絡会を設けてパイオニア製品における全社的な著作権保護技術コンプライアンスの徹底を図っています。

さらに、パイオニアブランドを信頼し購入されたお客様の期待を裏切らないように、ブランド価値と社会的信用を脅かす模倣品を市場から排除する取り組みを、事業部や法務・知的財産部など関係部門が協力して行っています。

国内グループの従業員に対しては、業務活動の中での著作権保護のために、Q&Aを作成して、社内のイントラネットに設けた掲示板での掲載を行い、相談窓口を設けて問い合わせに対応しています。

情報セキュリティおよび個人情報保護

パイオニアグループは、情報資産の保全と活用、管理のための仕組みと組織体制など、情報セキュリティ対策の基本ルールとしてパイオニアグループ規程「情報セキュリティ管理基本規程」を定めて情報セキュリティ管理に取り組んでいます。

個人情報保護については、「個人情報保護方針」を制定・公開するとともにパイオニアグループ規程「個人情報保護規程」を定め、グループ各社は、この規程に従って個人情報を取り扱い、お客様の権利・権益を厳重に保護しています。意図的な「個人情報の漏洩事故」(外部からの攻撃や内部者の不正な持ち出しなど)は発生していません。

資材調達のお取引先様への要請

パイオニアグループは、「パイオニアグループ行動規範」においてお取引先様と対等な立場で関係法令および契約に従った誠実な取引を行うことを定めるとともに、お取引先様には事業活動を行う国や地域の法令の遵守、国連やILO、OECDなど国際的な合意事項の尊重にもとづく社会的責任を自覚した行動を求めています。

1.CSR調達の推進

資材調達のお取引先様には、「公平・公正」「環境保護」「社会的な責任」を基本とする「パイオニアCSR調達ガイドライン」を公開し、その活動の中で、お互いにCSR調達を高めていくことを要請しています。

2.責任ある鉱物調達の対応

パイオニアグループは、責任ある鉱物調達の対応を企業の社会的責任を果たす上での重要な課題としてとらえ、お取引先様と連携してサプライチェーンにおける鉱物調達の透明性確保を要請しています。

3.反社会的勢力との係わりの排除

パイオニアグループは、お取引先様に対しても、反社会的勢力との係わり、利用、資金の提供など行わないように求めています。

4.サプライチェーンBCPの推進

災害や不測の事態が発生した際でも早期復旧、事業継続を確保し、供給責任を果たすことは製造業としての責務です。お取引先様にもサプライチェーンの明確化とBCP(Business Continuity Plan 事業継続計画)の策定、見直し、レベルアップを求めています。

お客様の満足と信頼を得るために

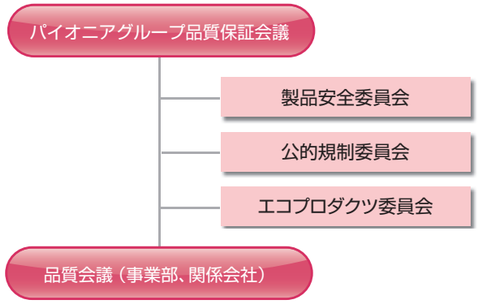
品質保証の理念

品質保証理念

お客様の安心と満足が得られる
商品とサービスを提供する

パイオニアグループでは、お客様満足を追い求める上でもっとも基本的なことが品質の確保であると考えて『品質保証理念』を定め、その実現を目指し、品質保証責任と権限を明確にして品質の向上に取り組んでいます。具体的には、品質保証会議および製品安全委員会、公的規制委員会、エコプロダクツ委員会の3つの委員会を設けて組織を横断したパイオニアグループ全体として活動しています。

パイオニアグループでは、『品質保証理念』のもと、期ごとに「パイオニアグループ品質方針」を定め、製品品質、製品安全、公的規制、製品環境に関しては重要な管理項目と位置づけ、それぞれに具体的な目標値を設定し、開発生産プロセスから販売・サービスプロセスまで含めた、関係する全社員への浸透を図っています。また、お客様に満足していただける商品を提供するためには、お客様の商品への期待である「人間中心設計の推進」の向上が欠かせない要素と考え、これを製品評価へ反映させていきます。



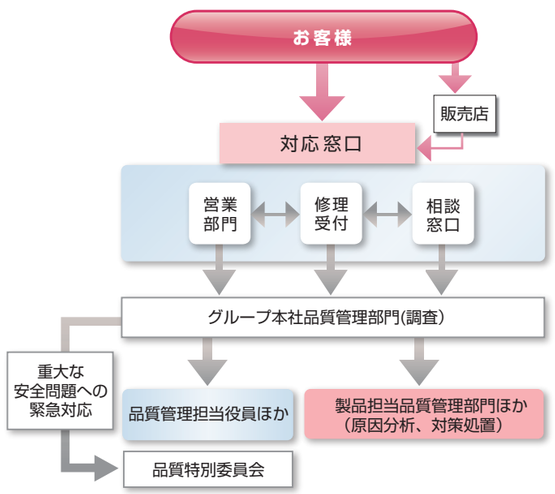
品質保証に関連した当社取得の主なマネジメントシステム
- ISO9001品質マネジメントシステム
- ISO/TS 16949 自動車関連製品の品質マネジメントシステム

製品安全確保への取り組み

パイオニアグループでは、取り扱う商品や販促物に対して、また取り付けや修理において安全を確保するための基本事項を明らかにして、人身や財産等への危険と損害の防止に努めています。そのために、製品安全委員会を中心とした仕組みを整え、製品安全に関する行動指針にもとづいて日頃からの未然防止活動と迅速な事故対応に取り組んでいます。

商品の安全性にかかわる、お客様からの情報を、お客様や販売店様等から積極的に収集し、グループ本社品質管理部門が一括して管理し、迅速に経営トップに報告するとともに、お客様や販売店様等に対して適切な情報提供を行います。

●商品の安全性にかかわる、お客様からの情報の流れ（概要）



製品安全に関する行動指針 http://pioneer.jp/corp/society/csr/customer/customer_pu.php

製品安全レビューによる未然防止

新製品開発の早い段階で製品の安全性を検証する仕組みを運用しています。

製品を使用する人や製品が使われる環境などを幅広く想定した上で、その製品の安全性に関するリスク評価を行い、リスクに応じた対策を実施することによって、製品が出荷されてから廃棄されるまでに事故が起きることのないよう、未然防止に取り組んでいます。

安全な取り扱いに関するお客様への啓発活動

「製品を安全に正しくお使いいただくために」をホームページに掲載し、お客様一人ひとりが安全に使っていただけるよう、設置や使い方など製品の正しい取り扱い方をイラストを用いて分かりやすく説明しています。

製品を安全に正しくお使いいただくために http://pioneer.jp/oshirase/safe/
製品安全に関する重要なお知らせ http://pioneer.jp/support/oshirase/

製品安全規格と製品安全読本

製品の開発に当たっては、法的な規制情報だけでなく、過去の経験を盛り込んだ独自の「製品安全規格」を制定し、この規格を遵守することで、より安全な製品を提供できるように取り組んでいます。

さらに、フェールセーフ、フールプルーフなど、製品安全に関する基礎的な考え方を示した「製品安全読本」を作成しています。この読本は、社内外の製品安全に関する事例を取り込んで、製品を設計する技術者が理解しやすいものとなっており、社内の製品安全教育に利用されています。

フェールセーフ:
製品は故障した場合でも安全な方へ故障し、事故などに拡大しない。
フールプルーフ:
製品は誤って使用されても、予見可能な使用方法については安全が保たれる。

吊り下げる製品は二重安全構造をとること

例) 安全ワイヤーを追加して万一の落下に備えた天井取付け型スピーカー

製品安全読本からの抜粋

商品に関する公的規制への対応

パイオニアグループでは、販売する国・地域や業界の規制情報、あるいは国際機関における規格情報を収集し、全社で組織する公的規制委員会で情報展開し商品づくりに反映しています。また、販売部門では地域・国の規制に適合した商品であることを確認して販売しています。こうした活動を通じて、商品や販促物に要求される公的な規制・規格の遵守を推進しています。

商品に関する主な公的規制

- 安全規制、電波妨害規制、通信規制などの製品認証にかかわる規制
- 消費者保護や製品認証にもとづく表記の規制（製品本体表示・取扱説明書・梱包箱など）
- 環境規制

お客様の満足と信頼を得るために

品質確保に向けた源流からの取り組み

市場品質情報の早期入手と対応の強化

パイオニアグループでは、お客様からの情報は、的確に関連部門に伝え、営業支援活動や品質改善活動に結びつけています。たとえばカスタマーサポートセンター（日本国内）では、お問い合わせや苦情を毎月まとめたレポート「お客様の声」を役員と関連する部門の部門長をはじめ、すべての担当者に配信しています。また、事業部との定期的な会合でも商品の企画に活用できる情報を提供しています。海外でも同様の活動を行っています。このような月例での定期的な情報交換の充実とともに、相談窓口へのお問い合わせ、修理サービス情報、回収品の分析、インターネット上の書き込みなどにある「お客様の声」から市場で起きている課題を速やかに企画および設計部門へフィードバックする日常の活動としての対応を強化していきます。

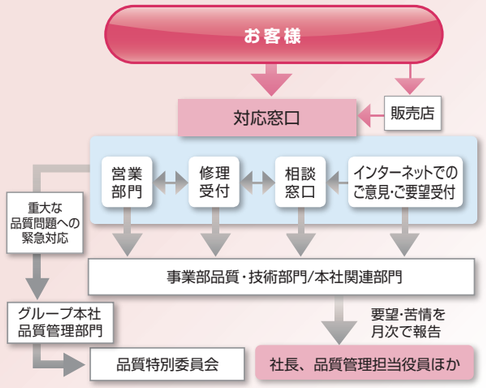
パイオニアにおけるAPQP活動

商品化のプロセスは相互に複雑に絡み合ったプロセスですが、その商品の品質に大きな影響がある企画構想から始まる商品開発の初期（源流）段階から品質目標の達成に向けた取り組みを明確にし、問題点の早期発見と解決を行う全社的なAPQP（Advanced Product Quality Planning：先行製品品質計画）活動に取り組んでいます。

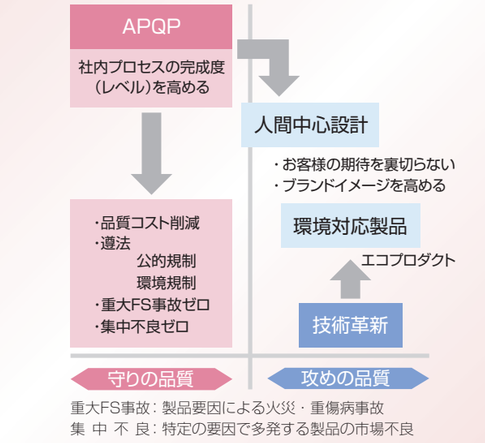
ひとつでも多くの成功事例を積み重ねて、パイオニアグループのトータルな品質の向上と確保につなげていきます。

APQP活動の4つのキーポイント
①事後対処ではなく、予測予防
②チーム活動
③現在の状況について、いつでも共有化されている
④しっかりしたコミュニケーション

● 品質にかかわる、お客様からの情報の流れ（概要）

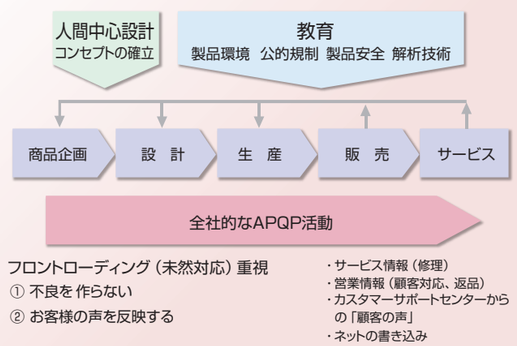


● 品質保証活動の考え方



重大FS事故：製品要因による火災・重傷病事故
集 中 不 良：特定の要因で多発する製品の市場不良

● 高品質な商品開発に必要とされるプロセス体制の構築



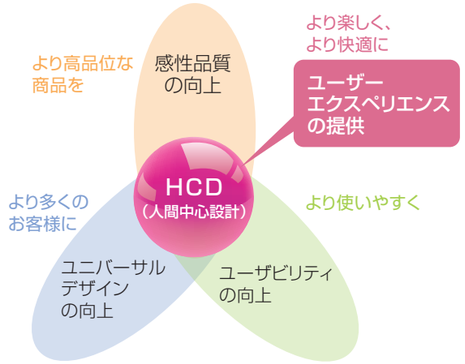
フロントローディング（未然対応）重視
① 不良を作らない
② お客様の声を反映する

・サービス情報（修理）
・営業情報（顧客対応、返品）
・カスタマーサポートセンターからの「顧客の声」
・ネットの書き込み

人間中心設計の推進

パイオニアグループでは、感性品質、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティを3つの柱とした人間中心設計：HCD(Human Centered Design)を推進しています。そしてお客様に楽しく心地よく使っていただけるような驚きをユーザーエクスペリエンス（体験価値）として提供するために挑戦をつづけていきます。

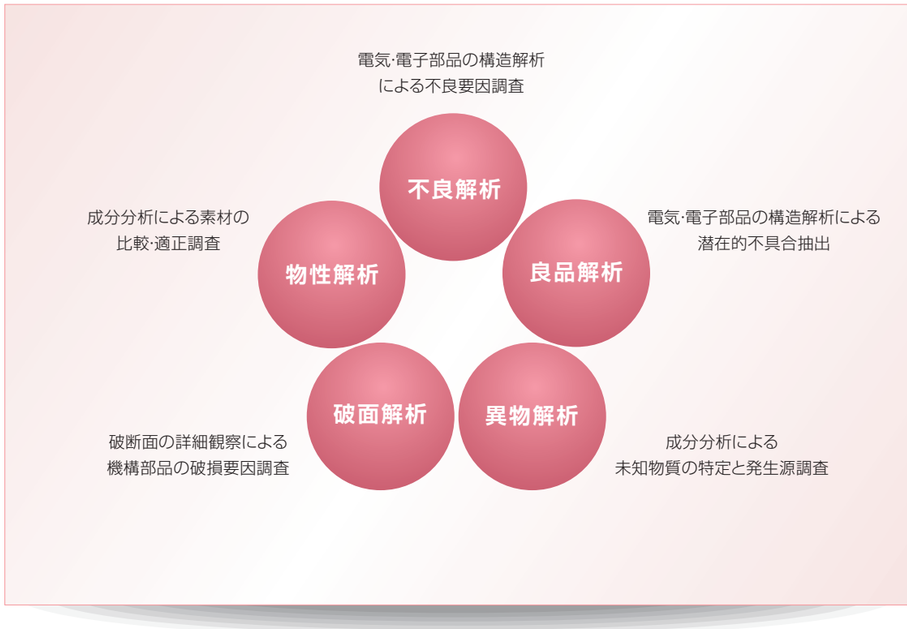
（注）一般的にHCDとは、利用者（顧客）視点に立ったモノづくり（商品開発）のプロセス概念であり、国際規格 ISO 9241-210（インタラクティブシステムの人間中心設計）にもとづいています。概念規定であるISO 9241-210の下に、ユーザビリティ／Webのアクセシビリティ等の具体的な規格があります。



解析評価による再発防止と未然防止

パイオニアグループでは、発生した品質問題の早期解決を図り、再発防止と未然防止に向けて的確かつ迅速な取り組みを行うことが、お客様の安心と満足が得られる商品とサービスを提供するうえで重要と考えています。そのために、開発生産プロセスの現場で素材や部品に起因する品質問題、あるいは作業や作業環境に起因する品質問題の解析評価技術力の向上を図っています。

市場や国内外のパイオニアグループおよび協力会社、資材取引先の生産工程で発生した故障品を、高度な解析評価技術によって故障の発生原因を突き止め、また、正常な良品を解析評価することにより得られるノウハウを開発生産プロセスでの再発防止と未然防止に反映し、製品の信頼性を高めます。



お客様の満足と信頼を得るために

お客様へのサポート&サービス

パイオニアグループは全世界において、質の高いサポート&サービスの仕組みづくりに取り組んでいます。毎年、サポート&サービスについてのお客様満足度調査を行い、その結果にもとづいて、CS（お客様満足）の向上につなげ、パイオニアファンの輪を広げる活動を行っています。常にお客様視点で物事を判断し、お客様に感動していただけるサービスの提供により、お客様との信頼関係を高め、全世界のお客様の期待に応えていきます。

パイオニアファンの維持・創出

製品品質向上への貢献

商品力向上への貢献

● 国内を対象とするお客様満足度調査（自主調査）の結果

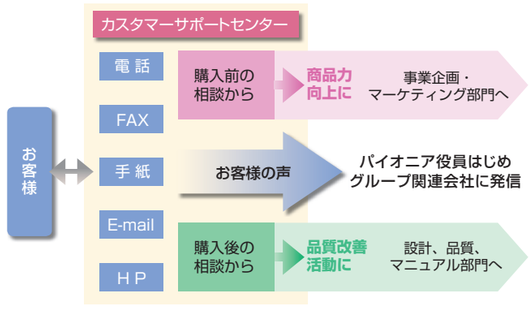
	2012	2013	2014
修理完了者総合満足度	78%	79%	79%
修理受付窓口応対満足度	93%	87%	88%
カスタマーサポートセンター総合満足度	94%	91%	93%
部品受注センター満足度	4.1 ポイント	4.3 ポイント	4.2 ポイント

お客様からの相談対応（カスタマーサポート）

カスタマーサポートセンター（日本国内）では、お客様の視点に立った分かりやすい窓口を目指して国内のパイオニア製品のサポート業務を統合し、年間約43万件の電話やE-mailによる商品の購入前や購入後の相談に対応しています。お問い合わせに対して単に回答するだけでなく、お客様の役に立つ商品情報の提供や付加価値の提案を行い、お客様視点に立った一層のCS向上を図っています。また、国内外のカスタマーサポート部門に届く相談のお問い合わせや苦情など、お客様からの情報は、的確に関連部門に伝え、営業支援や品質改善に結びつけています。

カスタマーサポートセンターでは2014年3月期も先期に引き続き外部機関の評価を取り入れて、話すスキル、説明のわかりやすさなど応対品質の更なる改善に取り組みました。

http://pioneer.jp/support/



● カスタマーサポートセンター（日本国内）での活動実績推移

	2012	2013	2014
カー商品相談件数 ホーム商品相談件数	34.0万件 9.4万件	34.5万件 8.3万件	35.3万件 7.9万件
電話応答率	72.2%	65.3%	85.2%

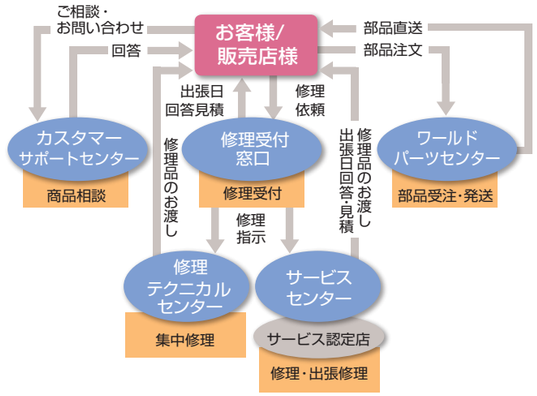
相談情報モニター体験制度

カスタマーサポートセンターに寄せられる「お客様の声」をより多くの社員が直接聞くことにより、社員一人ひとりが気づきを積み重ね、お客様視点に立った行動を実践し続けるために、相談情報モニター体験制度を設けています。

商品の修理サービス

日本国内のお客様からの修理サービスに対する期待と要望である「修理スピードの向上」への取り組みは、「問い合わせ窓口の分かりやすさ」や「応対の丁寧さ」、「修理や説明の適切さ」などとともに、お客様から高い評価を受けています。

● お問い合わせ、修理依頼の対応（日本国内）

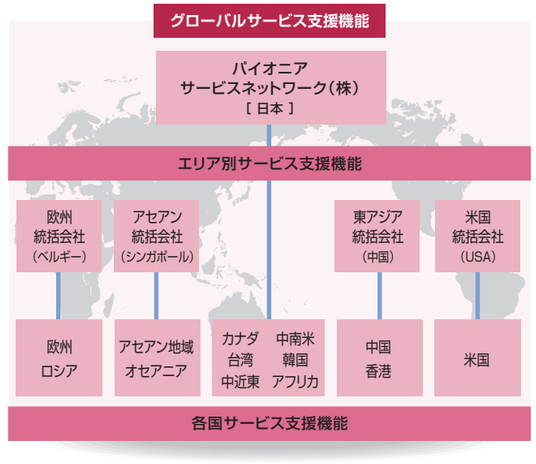


● 修理件数（日本国内）

2012	2013	2014
253千件	233千件	206千件

2014年3月期は全世界でのカーOEM製品のサービス体制の強化・充実や昨年に引き続きBRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）及びアセアン諸国を含む新興成長市場に対するサービス体制の強化・充実を図りました。

● 全世界サービス体制



安心してご愛用いただくために

パイオニアは、1983年よりブラウン管テレビを始めとしてプロジェクションテレビ、プラズマテレビなどのディスプレイ製品を販売してきましたが、2010年3月期をもってディスプレイ事業から撤退しました。事業撤退後もお客様に安心してご愛用いただくために、各製品の補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、機種ごとに製品の生産終了時を起点として8年間としています。さらに、この保有期間が経過しても、部品在庫がある場合は修理対応することにしています。（ただし、性能部品以外については、代替部品を使わせていただく場合もあります。）

2009年4月をもって生産を終了したレーザーディスクプレーヤーにつきましても、ディスプレイ製品と同様の修理サービスを継続していきます。

プラズマテレビ

レーザーディスクプレーヤー

パイオニアの環境活動とは

環境活動の基本的な考え方

パイオニアグループは事業を通して「より多くの人と、感動を」共有できる会社を目指しています。

この目標を実現する為の大きな要素の一つが地球環境保全と考え、1992年に「環境保護の理念」を制定しました。

近年、世界の人口増加、経済活動の広がりが加速し、以前から提唱されてきた地球温暖化、汚染、資源・生物多様性の損失などの環境問題が顕在化しています。当社が事業を継続する上で果たすべき社会的責任の範囲は自社の領域を超え、ライフサイクル全体での環境保護の成果を求められ、そして製品・サービスによる環境貢献を期待されています。パイオニアグループはそれぞれの課題に対し、法規制・社会貢献の視点で横断的な環境保護の戦略を推進し、教育により活動を活性化させ、その結果を積極的に情報開示することでステークホルダーの皆さまと共に持続可能な社会の実現を目指します。

理 念

パイオニアグループは、地球環境を維持、改善し、次世代に引き継ぐことが企業の使命の一つであることを深く認識し、常に豊かで安全な環境の実現に寄与するよう努めます。

環境基本方針

重要課題

1. 地球温暖化防止
事業活動ならびに製品のライフサイクルに起因するエネルギーの使用と温室効果ガスの排出を削減する努力をします。

2. 省資源と資源循環
事業プロセスでの材料・水などの資源の使用を減らすとともに、資源の循環を可能な限り推進します。

3. 化学物質の管理
使用する化学物質の確実な管理を行ない、有害な可能性のある化学物質は継続的な削減・代替に努めます。また化学物質の利用にあたっては汚染の予防に努めます。

4. 生物多様性の保全
地球上の野生生物、森林、海洋などの生態系を保全し、生物多様性を維持することが重要と考え、自然環境保護への建設的な行動をします。

基本行動

5. 法規制の遵守
適用を受ける環境法規制を遵守しつつ、必要に応じて自主管理基準を定め事業活動を行ないます。

6. 情報開示とコミュニケーション
環境に関する情報をステークホルダーに提供し、広く社内外からの意見を尊重して、環境活動に活かします。

7. 環境教育
環境保護を意識し、行動に結びつけることのできる人材を育てることを目的とした環境教育を推進します。

8. 社会貢献
良き企業市民として、より良い地球環境及び地域環境の実現につとめ、社会の発展に貢献します。

将来に向けた取り組み

企業市民として積極的な環境保護活動を加速させ<緩和策>で責任をはたすことはもちろんですが、新たなエコで豊かな生活を提案し、感動をお届けすることも我々の使命です。世界初の商品をお客様に提供してきた企業だからこそできる環境貢献への思いを「環境ビジョン2020」として制定しました。

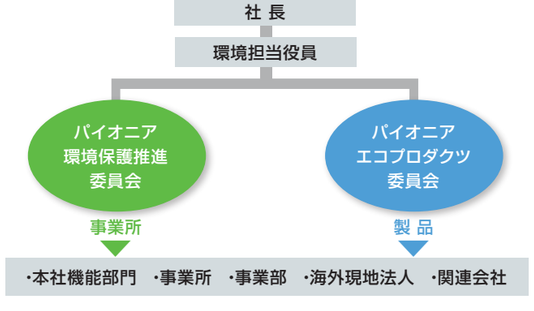
環境ビジョン 2020

持続可能な社会の実現のために、
エコで豊かな生活を創造し、
高い”技術”と積極的な”活動”で社会に貢献する。

環境保護推進体制

パイオニアは、1991年に環境保護活動を統括する「パイオニア環境保護推進委員会」を発足し、2004年には組織横断的に製品に関わる環境保護活動を管理する「パイオニアエコプロダクツ委員会」を設置したことで、事業所と製品の2つの切り口からグループの環境保護活動を推進しています。

今後は事業所、製品での活動に加え、事業活動全体のCO_2見える化を進め、製品の企画、開発、生産、使用による環境貢献に取り組む体制を整備し、ライフフサイクル全体での温室効果ガス削減を進めていきます。



製品開発での取り組み

製品の環境課題を技術で解決

「エコで豊かな生活」を提案できる商品をお客さまに届けることがパイオニアの環境貢献と考えています。
「地球温暖化の防止」・「資源循環」・「製品含有化学物質の管理」、これらの課題を当社の環境技術で解決できるよう製品開発に取り組んでいます。

地球温暖化の防止
- 消費電力削減
- 自動車の燃費向上
- 輸送時の省エネ

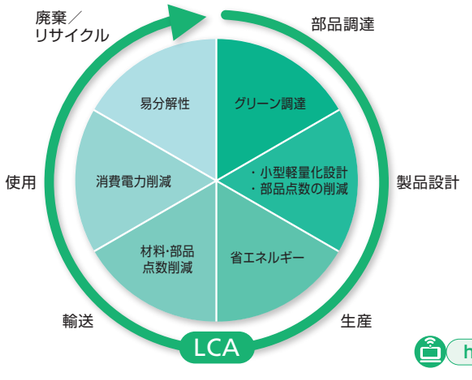
資源循環
- 材料・部品点数削減
- 梱包の省資源化
- 易分解性

製品含有化学物質の管理
- 環境影響の最小化
- グリーン調達の推進
- 化学物質情報の管理

製品ライフサイクルの視点

原材料の採掘から製品の生産／流通、お客様でのご使用／廃棄までの製品のライフサイクル全体の環境負荷を小さくするためにLCA（ライフサイクルアセスメント）を行っています。ライフサイクルの各ステージの環境への影響を可視化して製品の環境性能の改善を推進するとともに、分析したデータをホームページで開示しています。

● 製品ライフサイクル視点で見た製品アセスメントの流れ



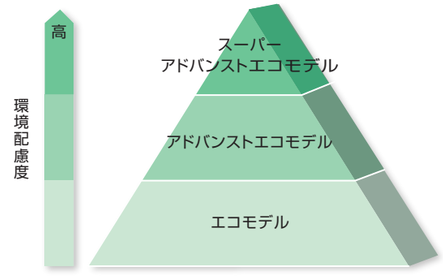
環境性能の向上

製品の設計段階で、部品を構成する材質、使用量および搭載する電子部品などを選定します。また、お客さまが使用する際の消費電力などの電気性能もここで決まります。当社は環境性能を決定する、この重要な製品設計タイミングで、全ての製品を対象に製品アセスメントを行い、効果的な環境配慮を実現させると共に、世界各国の環境法令への適合を確実にしています。

環境配慮製品の評価

設計完了時に当社の環境配慮製品の評価体系に基づいて達成状況を確認し、製品リリース時にスーパーアドバンストエコモデル／アドバンストエコモデル／エコモデルとして認定します。認定モデルの開発部門を表彰するとともに、社内での広報、環境賞への応募など、コミュニケーションを推進する目的としても活用をしています。

● 環境配慮製品の評価体系



● スーパーアドバンストエコモデル
≪ 環境性能がきわめて高い製品 ≫
業界トップクラスの環境性能を実現、または当社独自の環境技術を搭載した製品で、環境担当役員が認定をします。

● アドバンストエコモデル
≪ 環境性能に優れている製品 ≫
従来製品に比べ環境性能が向上しているなど、一定水準の環境性能を備えた製品。

● エコモデル
≪ 基本的な環境性能を備えた製品 ≫

http://pioneer.jp/corp/environment/management/product/

パイオニアの環境活動とは

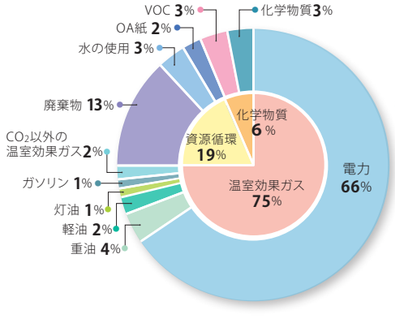
事業活動での取り組み

環境配慮された製品を省エネオフィスで開発し、エコファクトリーで生産する、この一貫した考えを日本だけではなくグローバルで共有し、ISO14001マネジメントシステムを活用した改善を推進しています。また、各事業所や国内グループ会社の環境マネジメントシステムを統合し、より高度な目標に向かって組織一丸となった活動を展開しています。

そして国内20社、海外20社のデータを集計し、次年度の活動にフィードバックするとともに、実績をまとめた「環境活動レポート」をホームページなど積極的に開示しています。

環境影響評価

パイオニアではグローバルでの環境影響評価を実施して事業所の環境管理項目を決定しています。当社の事業ではエネルギーの使用(温室効果ガス排出)による地球温暖化への影響が大きく、全体の75%を占めます。2番目は拠点における開発・生産活動による廃棄物の影響が13%となります。およそ90%を占める、この上位2項目に対しては目標を確実に達成するために、各事業所の目標値に対する実績を4半期毎に集計・評価しています。



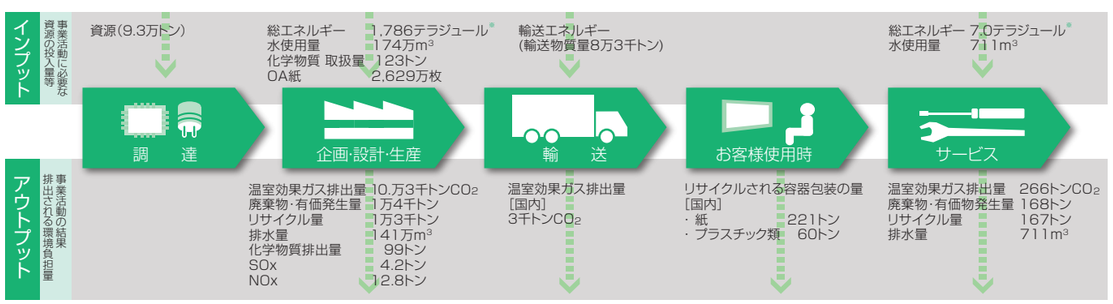
※環境影響評価の手法:
環境側面=環境要素(例えば電力の年間使用量)とLIME(被害算定型ライフサイクルアセスメント手法)により算出した係数を乗じたもの。

2014年3月期の主な目標・実績

項目	課題	2014年3月期 目標	2014年3月期 実績	2014年3月期 自己評価	今後の目標
管理項目	地球温暖化防止	国内: エネルギー使用量を、2010年3月期を基準年とし、2021年3月期までに総量で12%削減する。	基準年に対し6%削減	◎	2015年3月期、2017年3月期は2014年3月期目標に同じ
		全世界: エネルギー使用量売上げ高原単位を、2010年3月期を基準年に、2021年3月期までに10%削減する。	基準年に対し24%削減	◎	
	資源循環と省資源	全世界: 廃棄物・有価物発生量売上げ高原単位を、2011年3月期を基準年とし年率3%削減する。	基準年に対し28%削減	◎	

(注)自己評価の基準　◎目標を大幅に達成 / ○目標を達成 / △ 目標達成にわずかに届かなかった / ×未達成

パイオニアの環境負荷



輸送エネルギー
(輸送物質量8万3千トン)

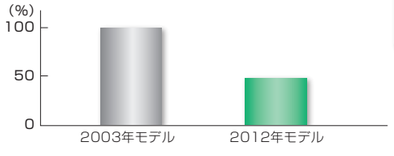
( )内は概算値です。　※テラは10の12乗

地球温暖化防止に向けた取り組み

デジタル技術による消費電力の削減

オーディオシステムの中心となるアンプ製品は、当社独自のデジタル技術で消費電力の半減化を実現しました。このデジタル技術を家庭用製品のハイエンド機から普及機まで、また自動車用のカーAV製品にも展開しています。

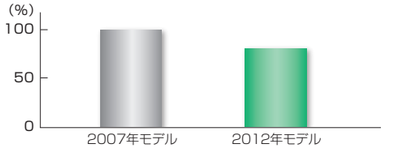
● デジタルアンプ技術による消費電力の削減例



カーナビで燃費のよいルートを選ぶ

パイオニア独自のスマートループが、もっともガソリン消費量が少ないルートを探索、当社のカーナビがエコドライブを実現します。

● ルート探索の進化によるガソリン消費の削減例

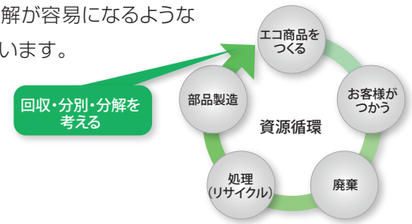


http://pioneer.jp/corp/environment/product/prevention/

資源循環の取り組み

リサイクルがしやすい材料を選ぶ

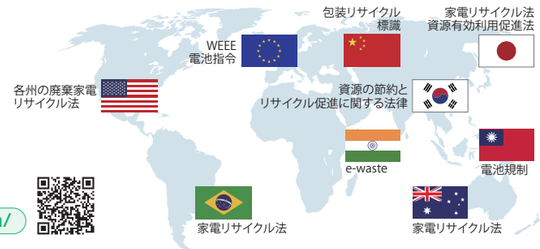
部品調達段階では使用するプラスチック材料の種類の削減、異なる種類のプラスチックを接着しない、梱包箱に樹脂フィルムなどを貼り付けない、再生材料の利用を促進するなど、回収・分別・分解が容易になるような材料を選んでいます。



http://pioneer.jp/corp/environment/product/circulation/

消費地でのリサイクルスキームへの対応

製品の廃棄は消費地のリサイクル法にそって適切に処理できるよう、グローバルでの法規制監視体制を整えています。またリサイクルに配慮した設計を推進し資源の有効利用や環境汚染防止など取り組んでいます。



製品含有化学物質の管理

環境影響の最小化

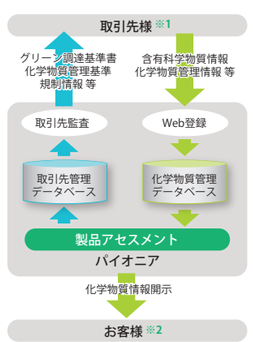
新たな規制物質に対し、さまざまな情報から環境影響を的確に判断し規制に先行した使用禁止処置が、確実に実施できる体制を構築しています。このように製品に使われる化学物質による環境影響が最小となるよう継続的に取り組んでいます。

環境影響等を考慮し規制化を予測
↓
製品含有状況の把握 使用禁止時期の決定
↓
規制に先行し計画的に使用禁止

http://pioneer.jp/corp/environment/product/chemicals/

化学物質情報の管理

化学物質情報の伝達・開示を円滑にするため、サプライチェーンでの情報収集効率化に取り組み、化学物質情報をデータベースで管理、取引先様※1・お客様※2に情報の効率的な受け渡しができるよう情報伝達システムを構築しています。



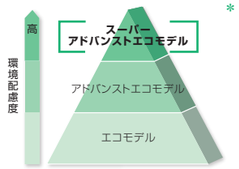
※1 資材調達先　※2 顧客・納入先

製品のエコ

スーパーアドバンストエコモデル

環境配慮製品の評価体系*に基づく認定製品例です。

＊ P20ページ参照

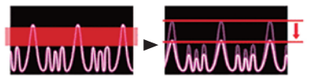


本格的なAVアンプでありながらエコも追求!
SC-LX87／SC-LX77／SC-LX57／SC-2023
VSA-1123／VSA-823

「ハイパワー·高音質·高画質·先進機能だから電気を食う」そんな常識はパイオニアの非常識です。「心ゆくまで映画や音楽を圧倒的な臨場感で楽しみたい、しかもエコに」これがパイオニアの環境に対する考え方です。

SC-LX87

音質を犠牲にしない
「新エコモード」を搭載



EV普及をサポートするEV専用カーナビ AVIC-MRZ007-EV

化石燃料を使わず、排気ガスを出さないEV（電気自動車）専用カーナビです。バッテリー切れというEV特有の不安を解消する「推定航続エリア表示」機能を搭載。

AVIC-MRZ007-EV

暖かく芳醇な響きを奏でるロングヒット商品 ピュアモルトスピーカーシリーズ

ウイスキー熟成の使命を終えた樽をパイオニアは永年培った音響·木工技術を駆使し、スピーカーのキャビネットにリサイクルしました。

S-A4SPT-PM

S-A4SPT-VP

http://pioneer.jp/corp/environment/product/superadvanced/

車のエコ ーカロッツェリアの優れたエコー

パイオニアはカーライフの「エコロジー·エコノミー·エンジョイ」を実現する製品の創出に取り組んでいます。カーナビではパイオニア独自のスマートループがエコなルートを探索、渋滞を避け燃料を削減します。カーAV製品では装着した車の負担を少なくし燃費向上に貢献できるよう小型·軽量化、消費電力の低減に取り組んでいます。また、小型·軽量化はお客様に製品をお届けするまでの輸送燃料の削減にも貢献します。

スマートループでエコなルート探索

スマートループはサイバーナビ·楽ナビ·アプリユニット·ナビクレイドルなどでご利用になれます。

ガソリン
消費
DOWN

AVIC-ZH0007

SPH-DA99

SPX-SC01

小型·軽量化、省電力で装着車の負担を軽減

MVH-790
容積 41%·質量28% 削減

PRS-D700
容積 63%·質量56% 削減
消費電流 15% 削減

＊いずれも当社従来製品との比較

http://pioneer.jp/corp/environment/product/car/

家のエコ ー家庭用製品の優れたエコー

パイオニアは毎日の生活を、明るく·楽しく·エコにすごせる商品を提案します。当社の家庭用製品は24時間365日、いつもエコを心がける思想でつくられてます。オーディオ·ビジュアル製品の環境負荷は大きなものではありませんが、「環境に配慮」がパイオニアの使命と考え全社一丸となって取り組んでいます。

映画や音楽をスリム&エコに楽しむ

小型高効率Class Dアンプにより、クラス最高水準の低消費電力96Wに加え、コンテンツの臨場感やイメージを損なうことなく消費電力を抑えるインテリジェントな「ECO MODE」を搭載。

Smart Theater S5

海外の厳しい基準をクリアした省エネ技術

アンプ効率やスタンバイ消費電力など厳しい基準をクリア、エナジースター"Audio/Video Ver.3.0"の認証を取得しました。

北米向け AVレシーバ SC-82/SC-81

やさしく·うつくしく·エコに

さまざまなシーンでのメークに適した光を再現します。自然光に近いため発色性や視認性に優れています。水銀を含まず、低消費電力10Wと環境にも配慮しています。

資生堂専用"メーク用有機EL照明"
「OLE-B01」

http://pioneer.jp/corp/environment/product/home/

街のエコ ー趣味と仕事用製品の優れたエコー

パイオニアは「街でもエコに楽しく快適に」をテーマに優れた環境配慮製品を開発しています。クラブやバンド演奏で活躍するDJ（ディスクジョッキー）機器は、ダンスや音楽をさらに楽しいものにしてくれます。ポタナビは健康にも省エネにも役立つ、サイクリングやポタリング（自転車散歩）で活躍します。ダンサーのためのオーディオ「STEEZ」は、ダンスをもっと夢中なひと時にしてくれます。さらにパイオニアのIT技術を活かした業務用のテレビ会議システムやディスカッションテーブルは業務の効率化を図りコミュニケーションを円滑にしてくれます。

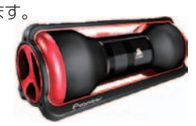
DJ（ディスクジョッキー）機器のエコ

プロ用·ホームユースDJ機器ともに、消費電力や資源の削減などに取り組んでいます。「華やかな世界を演出する製品もエコに」、これがパイオニアなのです。

マルチプレーヤー
CDJ-2000nexus Platinum Edition

ダンスをエコに楽しむ

パワーセーブ設定にて電池の消耗と消費電力の削減ができます。梱包材にリサイクルパルプを採用しています。



ポータブルミュージックシステム
STZ-D10Z-R

自転車用ナビでエコに走る

自転車なら燃料を使わずエコに。繰り返し使えるリチウムイオン電池を採用、さらに「省エネモード」を搭載しています。

サイクルナビゲーション
SGX-CN710-W

業務用製品の優れたエコ

出張などの移動にともなう燃料·電力、また紙資源の使用を減らしCO_2排出を削減します。

サイバーカンファレンスシステム·
プライム

http://pioneer.jp/corp/environment/product/town/

製品のエコ

パイオニアは環境賞を多数受賞

アワードへのチャレンジ

パイオニアは環境配慮製品を第三者の方々に評価していただくため、権威ある多くの環境賞に参加しています。単に応募して受賞を目指すのではなく、行政・教授など環境を専門に研究されている有識者の方々からのご見解や・ご意見を伺うことを最大の目的としています。時には、厳しいご指摘やご指導をいただくこともありますが、これらを糧として日々の環境活動の改善に活用しています。また、環境賞への参加は応募した該当部門だけではなく、社内全体の環境意識高揚、新たなチャレンジへの活力にもなり、パイオニアスピリットの発揮につながっています。

■ 低CO_2川崎ブランド(2013)
EV(電気自動車)専用カーナビ AVIC-MRZ007-EV
省電力 LCA

■ グリーン購入大賞(2009)
デマンドバスナビシステム
省燃料

■ かわさき環境ショーウィンドウ大賞 (2012)
カーナビデータ管理の省電力化
省電力

■ 資源循環技術・システム表彰 (2009/2005)
■ 3R推進協議会会長賞 (2009)
ピュアモルトスピーカーシリーズ
省資源 省エネ

■ 低CO_2川崎ブランド(2012)
AVアンプ SC-LX85
省エネ 省資源 省電力 LCA

■ エコプロダクツ大賞 (2008)
サイバーナビ AVIC-VH9000
省燃料

■ グリーンITアワード(2010)
■ グリーン購入大賞 (2010)
サイバーナビ AVIC-VH9990シリーズ
省燃料

■ 省エネ大賞 (2005)
プラズマテレビ PDP-435SX
省電力

■ 資源循環技術・システム表彰 (2002)
DVDプレーヤー DVDミニ楽(ラクラ) DV-U7
省資源

http://pioneer.jp/corp/environment/product/superadvanced/#EnvironmentalPrize

知られざる開発秘話 ースペシャルコンテンツー

社員が「熱い想い」を語ります

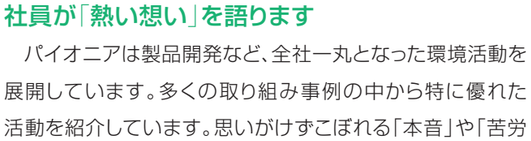
パイオニアは製品開発など、全社一丸となった環境活動を展開しています。多くの取り組み事例の中から特に優れた活動を紹介しています。思いがけずこぼれる「本音」や「苦労談」開発当時は決して明かすことなどできなかった「秘話」も満載。「環境」にかけた今なら話せる「熱い想い」をスペシャルコンテンツとして掲載、お客様からの「技術者の生の声を聴きたい」というご要望にもお応えしました。

誌面の関係で一部を紹介します。ぜひ、パイオニア公式ホームページ「環境活動 スペシャルコンテンツ」をご覧ください。

詳しくはWebで!

パイオニア 環境 検索

http://pioneer.jp/corp/environment/



膨大なデータの管理に必要な電力の削減にチャレンジ。
想定外の事態や挫折をパイオニアスピリットで乗り越えた「縁の下の力持ち!」の汗と涙の物語です。

Web記事の一部です

「導入」と「復旧」の待ったなしの同時進行が否応なく始まったのです。徹夜の作業が続きました、焦りと不安から心が折れました。誰ともなく「もう、あきらめようか」と。「いや、被災地の皆さんはもっと大変な思いをしている」、「われわれにはパイオニアスピリットがある」そして「お客様と社会のエコを実現するんだ!」みんなで涙をこらえ、こぶしを握りしめた瞬間でした。

未来はすでに始まっている。
広がりつつあるEV社会をサポートするために!EV専用ナビの開発に立ち上がった「心やさしき男たち!」の物語です。

Web記事の一部です

もし途中で電池がなくなったら、同乗している家族にEVを押してもらわなくてはいけない。電池が不足したり、充電に時間がかかったら目的地に到着できない、商談に遅れる、これでは、最愛の家族や、恋人・友達をがっかりさせ、お客様に迷惑がかかる。こんな心配やかなしい思いをさせたくない、そして何より「楽しいドライブ」を大切にしたいと考えました。

「エコ・ルート探索」がエコドライブを強力にサポート!
さまざまな季節や走行条件を想定し、テストを繰り返した「タフな男たち!」の物語です。

Web記事の一部です

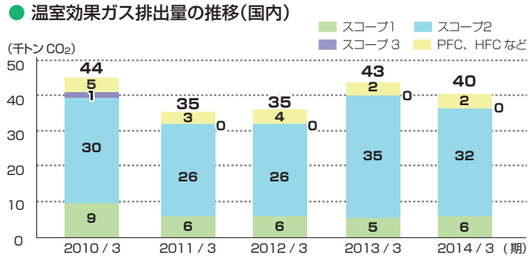
真夏の暑さ、真冬の寒さ、さらにカーエアコンの作動による影響を確認するために、あえて真夏にエアコンを切って暖房を入れ窓を閉め切って走ったり、真冬に暖房を切って実走試験をしました。正直言って、これはきつかったです。ただ、われわれは若い、体力も根性も自信がある、燃費を向上させ化石燃料の消費を減らし環境に貢献したい、そして何よりお客様の満足を得たい!

事業所の取り組み

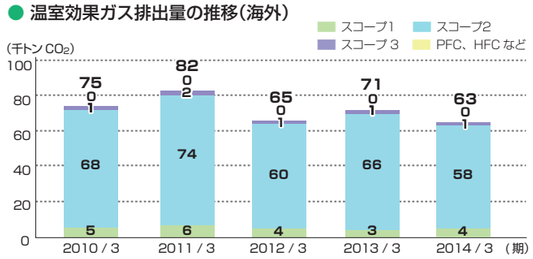
地球温暖化防止

2014年3月期の事業所におけるパイオニアグループの温室効果ガス排出量は、前年度に比較し、約10%の減少となりました。エネルギー使用量に対し、国内、海外ともに電力のCO_2排出原単位の変動の影響があります。

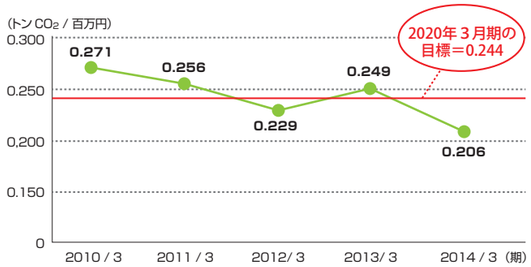
● 温室効果ガス排出量の推移(国内)



● 温室効果ガス排出量の推移(海外)



パイオニアは事業所から排出される温室効果ガスに関して売上高原単位で2010年3月期を基準年とし、2020年までに10%削減する目標を設定しました。毎年、原単位を分析することにより今後の活動に役立てています。



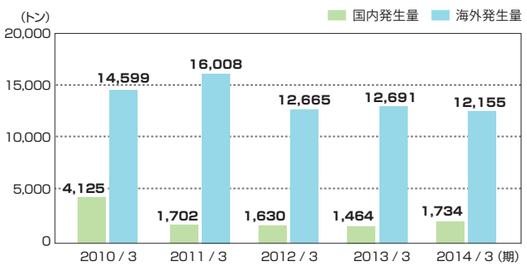
地球温暖化防止の活動事例

PSG(当社の中国上海工場)は照明のLED化に取り組みました。中国は石炭火力発電の比率が高いため、省エネによる温室効果ガス削減は大きな効果につながります。生産工程の照明を従来の蛍光灯からLEDに変更することにより、年間98,000kWhの節電を実現しました。

直管型LEDランプに交換

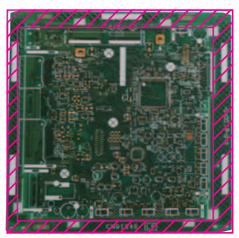
廃棄物・有価物の削減

廃棄物・有価物の発生量を減らすために、リサイクル可能な有価物を含めて、生産プロセスにムダな材料を投入しない工夫を継続的に行っています。また、事業所からの廃棄物をリサイクルし、埋め立て処分量をゼロに近づける活動を実践しており、国内・海外共にリサイクル率が99.5%以上(2014年3月実績)と高水準を維持しています。



資源の有効利用　活動事例

プリント基板の部品及びパターンレイアウトを工夫することで、生産時のみ必要で工程で捨ててしまう基板(端材)をなくす活動に取り組みました。基板面積減少による材料費低減、端材切断工程がなくなることによるコストダウンと、廃棄物・有価物の発生量削減などの環境効果を両立しました。今後、適用モデルを拡大し、全世界で廃棄物削減を推進していきます。



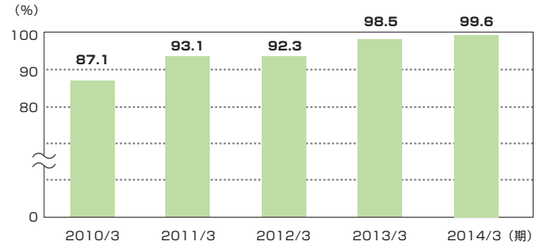
捨て基板(赤斜線部分)を無くしました

グリーン購入

パイオニアグループでは「ムダなものは買わない」「必要なものだけを購入する」そして「購入する場合は、環境に配慮されたものだけにする」を基本的な考えとし、積極的にグリーン購入を推進しています。

昨年度は「100%グリーン購入対象」に設定した13品目に対し、機能・性能に対してグリーン購入適合製品が存在しない「制服」以外は100%を達成しました。結果目標95%に対し、99.6%と高いグリーン購入率を継続しています。

● グリーン購入率



トピックス

パイオニアごみゼロ1stクォーター2013

パイオニアグループでは「パイオニアごみゼロ1stクォーター2013」を実施しました。
従来から地域の環境保全や従業員の環境意識向上を目的として、グループ各拠点で独自に地域の清掃活動を行っていましたが、2010年度より活動期間を統一して『グループ全体イベント』として実施しています。実施時期は、環境に関係する日・月間の続く当社会計年度の第一四半期(4月から6月)を統一活動期間と定めました。
昨年度は日本、海外計13拠点、のべ427人の社員が活動に参加しました。

タイ・プウング プララーム公園

パイオニア環境貢献賞

パイオニアグループでは環境活動への取り組み向上を図るため、環境保護活動に貢献した事業所やグループ・個人を社内表彰する「パイオニア環境貢献賞」と、環境保護に寄与すると判断された特許に与えられる「環境特許賞」を設けています。 2014年3月期のパイオニア環境貢献賞は、「データセンターの膨大なナビデータを省電力化」「中和排水のリサイクル」「コンテナサイズに合わせた梱包箱の最適化」「捨て基板レス化」の4件を優秀賞とし、最も優れた活動をした事業所として、十和田パイオニアを表彰しました。
環境特許賞は、日本特許庁の「グリーン早期審査・早期審理」制度を経て、登録された「シールドケースの板取方法」の発明者を表彰しました。

表彰式

タイ国内閣総理大臣産業賞を受賞

PTM(タイの生産法人)は、2013年内閣総理大臣産業賞(エネルギー管理部門)を受賞し、2013年11月14日に首相官邸のセレモニーホールで開催された祝賀会にて賞状とトロフィーが授与されました。受賞にあたってはMOI(タイ工業省)の監査を受け、その結果エネルギー経営委員会が中心となった全従業員での省エネ活動などが高く評価されました。内閣総理大臣産業賞はタイ政府が国内産業の振興などを目的として1993年に制定したもので、環境関連においてPTMは2008年の環境経営カテゴリー最優秀産業賞2551に続いての受賞となりました。

首相官邸前

一人ひとりがいきいきと働くために

企業ビジョンの実現に向けて

パイオニアグループは、企業ビジョンに掲げた、“街でも家でも車でも、笑顔と夢中が響き合う”の実現に向け、「会社・社員・風土」の係わりの中で「夢中で楽しく仕事をしている」、「自分の楽しみ、成長が会社の成長に繋がっている」、「迅速に勇気を持って決断し、失敗を恐れず高い目標にチャレンジしている」、「世界中の多様な社員が自由な発想を持ち、本音で話し合っている」、そのような姿を目指しています。

- 相互の信頼を大切にする
- 革新しようとすることを大切にする
- 組織や担当領域を越えた横断的なコミュニケーションを大切にする
- 自ら考え、学び、成長し続ける人を大切にする
- 最後までやり遂げることを大切にする

パイオニア株式会社「社員行動指針」から

人権の尊重

パイオニアグループは、「パイオニアグループ企業行動憲章」のなかで、「人間尊重にもとづいた企業活動をめざす」ことを謳っています。社員一人ひとりがいきいきと働くことができるよう、快適で安全な職場環境の実現を目指すとともに、雇用と労働において人権を尊重し相互に敬愛しながら、公平・公正に配慮した、透明性の高い仕組みづくりに取り組んでいます。

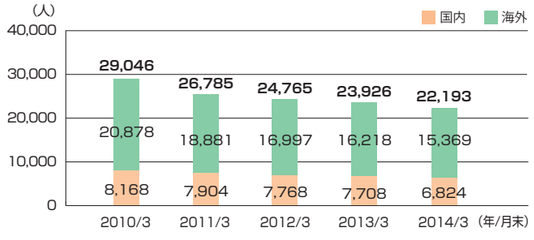
- 差別の禁止
- ハラスメント行為の禁止
- 労働災害の防止
- 児童労働・強制労働の禁止
- プライバシーの保護
- 法令遵守の徹底

パイオニアグループ規程「人事管理基本規程」から

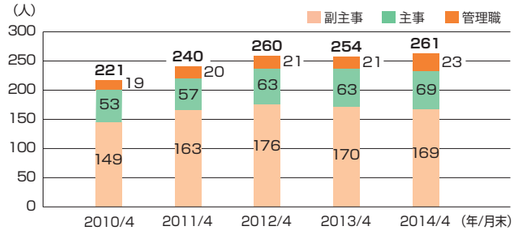
多様性の重視

パイオニアは、企業ビジョンの実現に向け、性別などにかかわらず、多様な社員が自らの能力を発揮し、それぞれの職場・業務で果たすべき役割に意欲的に、そしていきいきと取り組むことができる風土づくりに取り組んでいます。その実現のために、国内における「女性の活躍」を企業戦略における重要な課題と位置づけています。

● パイオニアグループ社員数推移



● 女性基幹職数および管理職数推移（出向者を含むパイオニア籍社員）



仕事と家庭の両立支援に関する取り組み

パイオニアは、従業員の両立支援のための取り組みを積極的に推進しています。

2013年8月に厚生労働省より付与される次世代認定マーク（愛称「くるみん」）を3期連続で取得し、現在は、第4期行動計画にそって、「お互い様の風土醸成に向けた幅広いアプローチ」、「仕事と家庭の両立支援体制の強化」の2つのテーマを掲げて、取り組みを継続しています。

● 各種制度の利用者数
（出向者を除くパイオニア社員）

（人）

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
育児休職制度	64(3)	53(2)	46(2)
介護休職制度	0(0)	0(0)	0(0)
育児・介護のための短時間勤務制度	77(4)	81(5)	85(4)

( )内は男性利用者数（内数）、休職者は期中人員、短時間勤務は期末人員

● 第4期行動計画（2013年3月1日～2015年2月28日）

1.「お互いさま」の風土醸成へ向けた幅広いアプローチ

① 次世代育成支援に関する理解向上を目指した積極的な情報発信
② 男性の制度利用を支援する活動の実施
③ マネジメントサポートの強化

2.仕事と家庭の両立支援体制の強化

① 母性保護に対する支援体制の整備
② 制度利用者の不安払拭のための段階別フォローの継続
③ 不妊治療に対する職場の理解促進のための活動実施
④ 各種ネットワーク作りの支援

メンター制度の活用

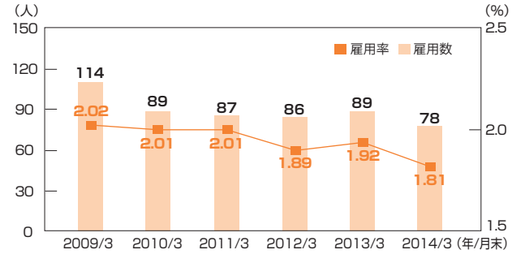
パイオニアは、豊かな価値ある人間関係を組織の中に積極的に作り出し、社員のキャリア設計や成長にプラスの影響を与える活動として、2007年9月からメンター制度を導入しました。女性管理職21人を対象にスタートしたこの制度は、現在では対象を幹部候補者および新人女性としています。

● 女性活躍支援　活動の三本柱

障がい者の雇用促進

パイオニアは、企業の社会的責任を果たすとともに、多様な人材の活用を図っていくために、障がい者雇用の取り組みをこれまで積極的に行ってきました。今後も積極的に障がい者雇用を推進し、グループ全体で職域の拡大に努めていきます。

● 障がい者雇用の推移（パイオニア）



メンタルヘルスケア

パイオニアは、社員の健康管理について、安全衛生面での配慮のみならず、人と企業を伸ばす視点において経営の重要な課題として取り組んでいます。とりわけメンタルヘルスケアは予防中心型の取り組みを推進し、従業員を対象としたセミナーの開催、啓発を目的としたリーフレットの配布、健康管理室の充実、さらに「メンタルヘルス職場復帰プログラム」などさまざまな施策を展開しています。

基本方針：メンタルヘルス障がいをつくらない、放置しない

労働災害防止

パイオニアは、労働災害の防止について、安全や心身の健康に配慮した職場環境と作業環境の維持・改善は、社員が安心して職務を遂行するにあたって基盤となる重要なものと考えています。事業所毎の安全衛生委員会の取り組みをはじめとして、災害防止や改善策の立案・実行など、各職場に対応した労働災害防止活動を推進しています。また、安全衛生委員会の活動を通じて、各事業所・拠点間の協力体制の強化にも取り組んでいます。

人材育成

パイオニアでは、社員を雇用し、マネジメントする上で基準となる考え方・方針であり、人事制度や人事施策を企画・運用する際の判断基準となるものとして「人材マネジメントポリシー」を定めています。

■ 人材マネジメントポリシー

人材マネジメント理念（大切にする考え方）

『共成』　～個人と組織が共に成長する～

- 一人ひとりが会社業務を通じて自らの成長を体感し、着実にステップアップしていく
- 一人ひとりが仕事の達成感を通じて喜びや満足を得ていく
- 個人と個人、個人と組織が互いに刺激し合い、高め合う関係を維持していく

人材マネジメントビジョン（目指す姿）

『人材マネジメントビジョン』とは、パイオニアにおける人材マネジメントの目指す姿を表したもので、一人ひとりの変革の力を会社の変革に昇華させる、人材育成と人材活用の指針とするものである

1. Positive Challenge
自らの強い思いを果たすためのあくなき『Challenge』を支える

2. Productive Chemistry
創造性と変革力が発揮される『場』を提供し、個人と個人、個人と組織の『Chemistry（相互作用）』を産み出す

3. Open Door Communication
マネジメントの真髄は『Communication』にあり

Vision C3 Challenge Chemistry Communication

社会貢献活動

音楽・映像：身体で聴こう音楽会

パイオニアの創業者、松本望が考案した音を振動に変える「体感音響システム」を使い、聴覚に障がいを持つ人にも音楽とリズムを全身で楽しんでいただく「身体で聴こう音楽会」は、パイオニアの社会貢献活動・ボランティア活動を代表する活動のひとつです。

1992年から継続して開催しているこの活動は、年間30回ほど、専任の事務局のほか、社員とその家族によるボランティアによって運営されています。

その中でも、パイオニア主催の定期コンサートは、毎回さまざまなジャンルの出演者を迎え、ダンスやビッグバンドジャズなど、視覚的にも楽しんでいただけるようなプログラムを組んでいます。2014年2月に行われた定期コンサートでは、過去最高の来場者数となり、会場のお客様も一緒に手話ダンスやフラダンスを踊るなど、会場は熱気に包まれました。

また、外部団体主催のオーケストラコンサートや障がい者のためのイベントにも、会場の一部に体感音響システムを設置し、聴覚障がいの方をご招待しております。

参加された方からは「諦めていた音楽を再び聴くことが出来て嬉しい」「この音楽会に来ると元気をもらえるので毎月楽しみにしています」と好評をいただいています。

今後もこの活動を通して、障がいのある方もない方も、ともに感動する場を広げていきたいと考えています。

毎年恒例の社員手話コーラスグループによるクリスマスコンサート

振動ユニットを内蔵したポーチとクッションにより、音を全身に伝えます。
【 都内ろう学校にて 】

様々なジャンルの出演者により楽しんでいただいています。
【 ビッグバンドジャズコンサート 】

過去最高の来場者数となった定期コンサート
【 フラダンス＆手話ダンス 】

環境保全：パイオニアの森

木材を使ってスピーカーを作り続けてきた企業として、森林の保全活動にも力を入れています。

2005年に埼玉県農林公社と協定を結び、同県鎌北湖近くにある2.4ヘクタールの桧の森を「パイオニアの森」と名づけ、定期的に手入れを行っています。社員とその家族のボランティアによる間伐や枝打ちなどの作業により、当初は暗く陽の当たらなかった森も、明るく緑あふれる立派な森へと成長してきました。今後も継続的な管理を行うとともに、子供たちの自然体験教室など森を利用した活動も充実させていく予定です。

パイオニアの森での間伐作業

教育支援：ものづくり教室

ものづくりの技術を次の世代に伝え、その楽しさを体験してもらうために、教育支援活動を積極的に行っています。

2014年8月に本社にて開催した「小学生のためのものづくり教室」では、音が聞こえる原理やスピーカーの仕組みを勉強した後、実際に紙製のスピーカー作りに挑戦しました。初めて自分で作ったスピーカーから美しい音が出た時の喜びを感じてもらうことで、ものづくりの楽しさを多くの子供たちに伝えていきたいと考えています。また行政や学校のニーズに応えたさまざまな内容の学習会の講師派遣などの活動も実施しています。

本社で開催したものづくり教室

パイオニアグループの社会貢献活動

国内外のパイオニアグループ各社では、「音楽・映像」「環境保全」「教育支援」を中心とした社会貢献活動に取り組むほか、スポーツエンタテインメントや福祉活動・災害支援（マッチングギフト）など、地域・社会のニーズやその時々の社会的な要請を考慮したさまざまな分野の社会貢献活動を展開しています。

また、寄付活動に偏重することなく、事業に関連したノウハウや技術力を活かした従業員参加型の自主的な活動を主体とし、従業員一人ひとりが積極的に社会貢献に取り組むことを目指しています。

パイオニア深圳（PSZ）では春に向けた植林活動を行いました。

パイオニアグループが行うさまざまな社会貢献活動は、ホームページの「社会貢献」ページで紹介しています。 http://pioneer.jp/corp/society/contribution/

社会とのコミュニケーションのために

株主・投資家および社会

パイオニアでは、投資家やマスコミを対象に、決算説明会や企業説明会を定期的に開催するとともに、ホームページを通じて適時・適正な情報開示に努めています。

電子メールによる各種のお問い合わせ窓口を開設して、外部の方から寄せられるさまざまなお問い合わせに対応しているほか、パイオニアに対するご意見を匿名で受け付けるコーナーをホームページ内に設け、企業行動の改善に役立てています。

決算説明会（2014年5月）

お客様

パイオニアでは、さまざまなイベントやキャンペーンを実施して、お客様に体験していただく機会を設けています。世界各地で開催するイベントでは、パイオニア商品の魅力を知っていただくとともに、新しい楽しみ方を発見していただいています。

東京・銀座にあるショールーム「パイオニアプラザ銀座」では「新しいパイオニアを体感」していただけるよう、商品展示の他、さまざまなイベントを開催しています。

パイオニアプラザ銀座

取引先（資材調達）

パイオニアの資材調達部門では、資材調達の取引先と定期的に事業方針説明会を開催し、パイオニアの事業計画について説明し理解を深めていただくとともに、さまざまな社会的責任活動に関して、サプライチェーン全体で取り組む行動についても取引先に協力をお願いしています。

事業方針説明会（2014年6月）

販売店

パイオニアグループの販売会社では、日本全国の販売店や代理店に対して、経営方針説明会や新商品説明会などを開催し、パイオニアの経営方針、市場動向、商品戦略、マーケティング計画などを説明して、パートナーシップの強化を図っています。

カロッツェリア新製品発表会

地域社会

パイオニアグループは、責任ある「良き企業市民」として、地域社会との交流を図っています。グループ会社や各事業所では、周辺の学校の生徒や地域の方々を招いて、環境説明会などを開催しています。また、地域で開催されているイベントへの協力も行っています。

労働組合

従業員の代表であるパイオニアグループの労働組合※とは、相互信頼にもとづいた「話し合い」を基調とする良好な関係の維持向上に努めています。パイオニア労働組合とは、半期に一度の定例および臨時の中央労使協議会や、人事の諸制度に関する協議会での話し合いだけでなく、「会社を元気にする活動」や社会貢献活動などにも協働して取り組んでいます。

※ パイオニアと8つの関係会社で労働組合が組織されており、これらの組合で構成するパイオニアグループ労働組合連合会が全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会（略称：電機連合）に加盟しています。

全世界に広がるパイオニアグループのネットワーク

グローバルに事業を展開しているパイオニアは、世界各地域との連携を強化し、
地域ごとのニーズに合った製品・サービスを提供しています。
優れたグループパワーを発揮することにより、世界中の街や家、車の中に笑顔と夢中をお届けしています。

日本

東北パイオニア ㈱
東北パイオニアEG ㈱
最上電機 ㈱
パイオテック ㈱
テーピーエス ㈱
十和田パイオニア ㈱
パイオニアシステムテクノロジー ㈱
㈱ パイオニアFA
パイオニアファインテック ㈱
インクリメント・ピー ㈱
グローバル・サーベイ ㈱
パイオニアホームエレクトロニクス ㈱
パイオニア販売 ㈱
パイオニアサービスネットワーク ㈱
パイオニア東京サービス ㈱
㈱ テクニカルオーディオデバイセズラボラトリーズ
パイオニアデジタルデザインアンドマニュファクチャリング ㈱
パイオニア・マイクロ・テクノロジー ㈱
㈱ テック・エキスパーツ
パイオニア興産 ㈱
㈱ フクイン
パイオニアウェルフェアサービス ㈱

アメリカ大陸

アメリカ合衆国
Pioneer North America, Inc.
Pioneer Electronics (USA) Inc.
Pioneer Automotive Technologies, Inc.
Discovision Associates
Pioneer Advanced Solutions, Inc.
Pioneer International (Miami) Inc.

カナダ
Pioneer Electronics of Canada, Inc.

メキシコ
Pioneer Electronics de Mexico S.A. de C.V.

パナマ
Pioneer International Latin America S.A.

ブラジル
Pioneer do Brasil Ltda.
Pioneer Yorkey do Brasil Ltda.

ヨーロッパ

ベルギー
Pioneer Europe NV

イギリス
Pioneer GB Ltd.
Pioneer Digital Design Centre Ltd.

デンマーク
Pioneer Danmark A/S

ノルウェー
Pioneer Norge A/S

ロシア
Pioneer RUS Limited Liability Company

アジア&オセアニア

中 国
Pioneer China Holding Co., Ltd.
Pioneer Technology (Dongguan) Co., Ltd.
Pioneer Technology (Shanghai) Co., Ltd.
Pioneer Electronics (Shanghai Export Zone) Co., Ltd.
Pioneer (HK) Ltd.
Pioneer Digital Design And Manufacturing(Hong Kong) Ltd.
Dongguan Monetech Electronic Co., Ltd.
Dongguan Monetech Pai Yue Electronic Co., Ltd.
Shanghai Pioneer Speakers Co., Ltd.
Mogami Hong Kong Co., Ltd.
Mogami Dongguan Electronics Co., Ltd.
Pioneer Suntec (Shanghai) Electronic Technology Co., Ltd.
INCREMENT P Shanghai Co., Ltd.
Pioneer Trading (Shenzhen) Co. Ltd.

シンガポール
Pioneer Electronics Asiacentre Pte. Ltd.

台 湾
Pioneer High Fidelity Taiwan Co., Ltd.

マレーシア
Pioneer Technology (Malaysia) Sdn. Bhd.

タイ
Pioneer Electronics (Thailand) Co., Ltd.
Pioneer Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.
Tohoku Pioneer (Thailand) Co., Ltd.

ベトナム
Tohoku Pioneer (Vietnam) Co., Ltd.

韓 国
Pioneer Korea Corporation

インド
Pioneer India Electronics Private Ltd.

オーストラリア
Pioneer Electronics Australia Pty. Ltd.

U.A.E.
Pioneer Gulf, Fze.

（主な連結子会社のリストです。）

会社概要

商号	パイオニア株式会社 PIONEER CORPORATION	従業員数	3,641 名（単独） 22,193 名（連結）
本社	神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号	関係会社	連結子会社 80 社
創業	昭和13年1月1日		国内 26 社
設立	昭和22年5月8日		海外 54 社
資本金	91,731百万円		（2014年3月31日現在）